

A 匍匐することはない

B 枝は下垂したりねじれたりしない

C 広葉 葉や花は総て互生する

D 広葉 生時に葉表は側脈・細脈が凹み、やや皺状

E 葉裏は毛極密生し、後毛多く残る 若枝は散毛、後無毛〔バッコヤナギ節1=ヤマネコヤナギ節〕

F 葉裏は粉白、白縮毛が極密生する

(SGOHKTY、四近畿以北、山地-丘陵、乾地)(小高木-高木;葉233広)【10バッコヤナギ=ヤマネコヤナギ】

Y 幼木では葉裏無毛だが、大きくなると葉裏に綿毛が密生する

幼木例;葉表はほぼ無毛、中脈に微毛疎生 ほぼ無毛

葉裏は少毛散在、脈上に長軟毛やや多数 ほぼ無毛

成木例;葉表は少毛散在 ほぼ無毛、中脈は微毛密生 微毛残

葉裏は毛極密生、中脈の上面はやや少毛(側面は多毛)

若葉表に白綿毛か赤濁毛あり落ちる;裏白綿毛あり残る

葉表は深緑;裏粉白

葉表幼木例;生時は中脈・側脈がやや凹、余り皺にならず

葉表成木例;生時は細脈・側脈がやや凹で全面皺状(押葉で皺不明、凹脈不明、細脈裏凸せず)

葉裏は中脈・側脈・細脈まで裏凸;細脈透視 やや不透視;側脈先はややみだれ、やや肋脈(注)

低波鋸歯-ひら鋸歯-ひら凸鋸歯;乾くと極狭く縁が強く裏に反り全縁にみえる

成葉は楕円-長楕円形;巾30-40mm,60-150mm;鈍-円脚 生時に縁は上下に波曲する;革質

葉柄は微毛多 微毛少 葉柄10-20mm

托葉は小H+大C、斜腎形、円頭+鋭頭 托葉痕やや不明、小?

新葉の側縁は軽く裏巻きする

若枝は散毛 微毛残、芽無毛 若枝白軟毛あり、後無毛 1年枝無毛 隆起条がある

(G;冬芽大きく楕円形で円く、成葉裏に白縮毛多く、子房に長柄があるのでわかりやすい)

(H;早春、芽鱗を脱いだ大きい花穂が銀白に輝き非常に人目を引く)

(Y;ネコヤナギと違って乾燥地生)

(GY;若葉縁は裏巻きする。T;若葉は内巻き、後に葉縁が軽く外旋する)

変品種;【ホソババッコヤナギf;(S)葉は細い】

F 葉裏は淡白緑、全体密毛;表中脈有毛

(SGOHY、道、山地)(高木-小高木;葉2広)【10マルバノバッコヤナギ=エゾノバッコヤナギ=コウライバッコヤナギ】

葉表は中脈有毛;葉裏は全体密毛

葉は表緑-鮮緑色;裏は淡白緑

側脈の先はみだれず、なだらかで平行する

波状鋸歯か全縁

成葉は広楕円-長楕円形;巾30-50(70)mm,60-150mm;鈍-円-浅心脚;洋紙質

葉柄10-25mm、表に曲毛密

托葉斜卵形-半月形、10mm、鈍鋸歯;割合遅くまで残る

若葉は軟毛あるが落ち、裏の毛は密で落ちない

若枝は微軟毛あり、後無毛、褐紫色;前年枝は黄褐色、無毛 小枝に隆起条がないか少ない

(G;バッコヤナギによく似てるが、隆起条がない)(H;典型品は成葉巾広く円み帯び、第1次側脈はジグザグしない、なだらかな曲線となって平行に走ることが特徴とされる)(C;バッコヤナギとの区別は、枝の隆起条だけではかなり難しい。葉でも区別し難い。便宜的に分布域で分けている)

(S;マルババッコヤナギ*S. hultenii* Flod. とエゾノバッコヤナギ var. *angustifolia* Kimura を分けて掲載)

(G;コウライバッコヤナギ=エゾノバッコヤナギとし、*S. hultenii* Flod. と var. *angustifolia* Kimura を同種として掲載)

(H;マルバノバッコヤナギ *S. hultenii* Flod. として掲載)

(Y;エゾノバッコヤナギ *S. hultenii* Flod. とし別名マルババッコヤナギとする)